

平成30年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業 【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : 札幌地区
- 2 事例報告学校名 : 札幌市立開成小学校
- 3 報告者 : 校長 中村 義 則
- 4 キーワード : 地域の教育力を活かした特色ある教育課程・連携



I はじめに

開校 38 年目の本校(普通学級 17、特別支援学級 2)では、550 名の子どもたちが毎日元気に生活をしています。校区は北海道開拓のはじまりとされる札幌村があった地域で、開校当時の学校の周りは玉ねぎ畑でした。その後、元町地区は 1988 年の地下鉄東豊線の開業とともに宅地化されていきました。校区内の施設や人的、物的資源としては「札幌開成中等教育学校が隣接していること」「札幌市東区交通安全協会や消防団などの組織との連携があること」「ふるさとへの意識が高く、歴史ある郷土を大切にしている人たちがいること」などがあげられます。このような地域の強みを教育課程に位置付けて、地域に開かれていることを願いながら学校づくりを行っています。

II 地域の強みを生かした具体的な取組

1 「学力向上」のための教育課程の工夫

(1) 開成中等教育学校との連携

5, 6 年生が開成中等の生徒が行っている課題探究学習のプレゼンテーションを実際に体験する活動を行い、自ら課題をもち追究することの楽しさを感じているようです。また、3, 4 年生は開成中等で学ぶ留学生を小学校に招き入れて外国語活動を行うことで、異文化交流を行う生き生きとした子どもの姿が見られます。



生徒との交流



留学生との交流活動

(2) 地域の商業施設などとの連携

1, 2 年生や特別支援学級が地域の商業施設など見学する活動を行っています。キャリア教育の素地として教育課程に位置付けて充実を図っています。

2 「交通安全・防災・防犯意識」を高める教育課程の工夫

(1) 1 年生の自転車安全教室

東区交通安全協会などの諸団体の協力のもと、1 年生全員と保護者には 4 月の入学時に体験型自転車安全教室を行い、交通安全への意識を高めています。



1 年生の様子

(2) 全学年での交通安全教室

東警察署、元町まちづくり連合会の協力の下、1 学期末には夏休み中の交通事故防止をねらいとして、自転車の正しい乗り方やトラックの内輪差の危険について学びました。



巻き込み実験

(3) 3年生安全マップづくり

校区内の危険物や危険個所の発見をねらいとして、地域の方とフィールドワークを行いました。防災・防犯への意識を高めるとともに地域の方と一緒に活動することで、地域や住民への愛着も深めることができました。



(4) 防災シュミュレーション

本校PTAのおやじの会の主催で今年15回目を迎えました。東区消防団の協力の下、緊急避難所となる体育館で2日間に渡る活動を行い、防災についての意識を高めています。(写真は昨年度の様子。今年度は震災の影響により中止。)



3 「ふるさとへの意識」を高める教育課程の工夫

(1) 全学年でのたまねぎ栽培

玉ねぎ栽培発祥の地であり、特産物でもある玉ねぎを全校の異学年のグループで栽培、お世話、収穫する活動を行っています。収穫を祝う児童集会や調理活動も行い、児童活動や食育指導として教育課程に横断的に位置付け、本校の特色ある教育活動として開校から活動を続けています。



(2) 4年生歴史学習

地域の歴史家による出前授業では、郷土史や玉ねぎづくりの歴史を学び、自分たちの住むふるさとへの意識を高めています。

4 開かれた学校となるための地域との関係づくり

(1) 開成の子どもを育てる会

毎年6月に町内会役員、児童福祉関係者、PTAが集まり、子どもの放課後の生活や社会教育について現状や課題を話し合います。子どもたちの健全育成の軌を一にすることを目指しています。



(2) 学校施設開放

グラウンドでの町内会運動会の実施や体育館での音楽会開催のために積極的に学校施設を開放して、地域への貢献を行っています。

Ⅲ おわりに

地域の教育力を活かした特色ある教育課程を行うためには地域との連携を深めることが大切なのは言うまでもありません。さらに、まず学校を「どうしていきたいか(理念・ビジョン・方針)」という思い、そして地域の人的、物的資源の「何が使えるのか(先見・状況分析)」「どう使えるのか(ひらめき・創造)」「どのように使っていくのか(立案・方法)」ということが大切だと思います。これからも地域に貢献し、地域に開かれた学校づくりを目指して努力していきたいと思ひます。